

特集：大学説明会

学生による大学説明 —授業・実験・実習—

森本 麻美（筑波大学 生物学類 3年）

皆さん今日は、授業・実験・実習に関する説明を担当した森本麻美です。授業・実験・実習の話ということで、実際の私の時間割を参照しながら、授業の話からしました。

授業・実験の様子

他大学では一コマ90分のところが多いのですが、筑波大学では、「75分間の授業×6」のコマ割りになっています。昼休み以外の休憩時間は15分。この間に広大なキャンパス内を、自転車・小走りを駆使しながら、教室移動します。

1年1学期の時間割
～そうさ僕らはフレッシュマン！ 森本の場合

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	総合科目の遺伝子がつくる文藝	生化学概論	細胞学概論	<体育> 剣道	英語ⅢC (writing)
2時限目	総合科目のテクノロジーイチャング!	情報処理 (講義)	発生学概論	教育基礎学	教育心理学
3時限目	生化学概論			植物生理学概論	基礎生物学実験!
4時限目		英語Ⅰ (reading)	フレッシュマンセミナー	遺伝学概論	
5時限目	地球科学C 実験	英語Ⅱ (speaking)		物理学	
6時限目		地球科学C			

一年生のカリキュラムの特徴として、あげられるのは概論科目です。この概論科目は物理と化学で受験した生徒にも、生物が分からなくなるような講義になっています。もちろん高校の生物より専門的な知識も学ぶので、高校で生物をしっかり学んだ人も満足できます。基礎生物学実験というのは実験の概論版と言ったところで、基礎的な実験器具の取り扱いはもちろん、解剖、遺伝子の抽出など、今後必要となる技術の習得を行います。



一年生の間は週三回英語の授業があります。入学後、プレイスメントテストという英語の試験があり、このテストで自分の習熟度にあったクラスに振り分けられ、無理なく自分にあった英語の授業を受けることができます。読解だけでなく、日常会話、ライティングいろいろなことをします。グループ学習で他のクラスの友達も増えます。第二外国語として、ドイツ語・中国語・フランス語などをとることができます。

生物学類では教職科目の履修を推薦しています。教職科目を履修しない学生と比較すると、少し授業が忙しくなりますが、卒業するまでに教職免許が取れるので、職業選択の幅が広がります。また、博物館に関する科目を履修することで、学芸員資格を取得することもできます。

下表は、2年生のときの1学期の時間割です。

2年1学期の時間割(2年生以降の時間割)
～専攻コース決定! 森本(人間生物)の場合

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	動物生理学Ⅰ	ゾウム生物学Ⅰ	代謝生理学Ⅰ	理科教育概論Ⅱ	細胞学
2時限目	発生生物学Ⅰ	<体育> ジョギングウォーク	植物生理学Ⅰ	細胞学Ⅰ	道徳教育
3時限目			動物系統分類学Ⅰ	学校論	数学通論Ⅰ
4時限目	動物系統分類学実験!	動物系統分類学実験!		専門語学(英語Ⅰ)	心理学通論
5時限目					人権・平和教育論
6時限目		生涯指導・教育相談			

兼修授業: 動物分類形態学臨海実習・教育基礎実践・特別活動
生物学特講Ⅱ(人体発生学)・免疫生物学・各種種の分子生理学

2年以降の実験は午後をまるまる使った実験になっています。午後に実験があることから、自然と「生物学類の講義」は午前集中します。

1年生の3学期に専攻コースの選択をし、2年生の始めには専攻コースが決定しています。専攻コースごとに、学ぶ内容に変化が生まれ、履修する授業も異なってきます。そのため、一学年全員で受けていた概論科目とは異なり、教室も大教室から、小さな教室まで使用します。

自分の興味に従って授業を選択しますが、自分の専攻コース以外の授業も受けることができます。そのため私の専攻コースは人間生物学ですが、基礎生物学コース(多様性コース)の授業も受けています。

実験の関係で、生物学類の授業が午前中に多いと書きましたが、そのために、実験をとっていない日の午後は自由になり、興味にあわせて他学類の授業をとることができます。

2年以降は、集中授業というものが増えてきます。集中授業というのは、週末の休日や長期の休暇期間中に行われる、実習や講義のことです。集中授業を受けることで、通常授業では味わえないような体験をし、短期間で専門的な知識を得ることができます。



	1年生	2年生以降
特徴	○生物全般・基礎を学ぶ ○生物以外の科学	○午前は講義午後は実験 ○専門性が上がる ○他学類の授業の履修 ○集中授業・実習の登場
	国際的な場面で活躍できる語学力の習得 子どもたちに科学を教えられる力の育成	
形式	大教室での講義 実験室での基礎的な実験	大～小教室での講義 実験室での専門的な実験



実習の様子

実習というのは、長期休暇期間などに一週間ほど、静岡と長野にある実験施設に泊まり込んで勉強することです。生物学類が使う実験センターは、下田臨海実験センターと菅平高原実験センターのふたつです。主に、実習と卒業研究で使用される施設ですが、申請すれば、実習のない時期でも、自由に使用することができます。

次は菅平の様子です。一番上が、センター内の草原の写真です。この実習では近くの山へ出かけ、ありとあらゆる昆虫をとりました。採集した昆虫を、実験室に持ち帰って…。標本作りと観察さらに同定も行います。みんな黙々と自分の仕事をしています。

さて駆け足ではありましたが、筑波大学の授業・実験・実習の様子はどうでしたか？少しでもお伝えできるものがあれば幸いです。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 20, 2007.



実際の様子を見てみましょう。上記は細胞学臨海実習中の光景です。先生の周りに集まって器具の使い方などの説明を受けています。センター前の海は見て分かるようにとても綺麗です。左上は、ホヤの幼生に蛍光タンパクを発現させたものです。空き時間に、ヒトデやナマコ・アメフラシ等を採集したりしました。